

第47回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

東日本大震災と東電福島第1原発事故から3年になろうとしている。いまだに被災者の9割が仮設住宅など避難生活を送り、原発事故では14万人を超える人々が生活の基盤を奪われている。こうした中で、大震災からの復旧・復興、原発ゼロをめざすとりくみが引き続き全国で展開されてきた。とりわけ、金曜日ごとの首相官邸前や電力会社前での行動など、「原発ゼロ」を願う行動は、初めて参加する人を広げながら、全国で様々に工夫され粘り強くすすめられている。こうした行動の広がりも反映して、再稼動に反対する声は世論調査でも多数となり、昨年9月から国内で稼動している原発はゼロの状態となっている。

昨年一昨年の国政選挙の結果は、大政党内に有利な選挙制度のもと、憲法を変えようという勢力が国会で多数を占めることになった。今、憲法9条に焦点をあてながら、なし崩し的に憲法を変える危険な動きが次々と表れている。国民の口・耳・目をふさぐ特定秘密保護法が昨年強行採決された。政府からの圧力に屈した沖縄県知事による名護市辺野古での新しい基地をつくる埋め立ての許可がなされた。これは、日本を「海外で戦争する国」にしようとする危険な企てと一体となったものである。社会保障の削減や消費税増税による生活の破壊、拡大する貧困と格差や雇用制度の改悪による非正規労働者の増大、環太平洋連携協定(TP

P)への参加、オスプレイの新たな配備、また、景気回復をかけた大規模公共事業の復活など、多くの国民の声を無視した政治が強行される方向が強まるなかで、生活をまもれ・民主主義や平和をまもれという大きなうねりが広がり継続されている。

国会での十分な審議を求める多くの声を無視して採決された特定秘密保護法に反対する各階層分野の声と行動でも明らかになったように、社会のあり方を根本から問いかけ、新しい政治を求める様々な運動がこれからも共同の取り組みとなってダイナミックにすすめられるに違いない。安倍首相自らの靖国神社への参拝も、アジアで行った侵略戦争や非人道的な行為を認めない姿勢の現れであり、平和を願うアジアと世界から反発や不信の声が発せられている。

新春早々の名護市長選の結果は、基地はいらないという沖縄の意思が明確に示された。

昨年11月に開かれた「65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさか」(以下、おおさか祭典)には、のべ19000人が参加した。とりわけ、大阪城ホール会場を埋め尽くした11000人の大音楽会は、次々とくり広げられるうたごえと音楽の舞台が大きな絵巻物となって参加者の心を包み、平和・自由・民主主義を願う音楽の力を感じ合うものとなった。

新しい政治への模索が様々な形で探求されている中で、文化のもつ役割はいつそう大きくなっている。巨大マスメディアへの政治的圧力が強まっているが、マスメディアに働きかける運動も含めて、日々の生活において人間としての感性をより豊かにしていく文化の創造と普及が強く求められている。

憲法が掲げる自由と民主主義、平和主義、基本的人権や生存権などを保障した国づくりへ、今憲法をまもり生かしていくことが急務であり、その中で人々の心をつなぐ文化や音楽の力を大いに発揮していきたいものである。

2013年度 活動のまとめ

1 うたごえを創り広げる活動

①震災復興・原発ゼロめざすうたごえ

被災3年目に入った2013年、復興とは程遠い現地の状況、オリンピックで大手建設業者が東京へとシフトする中で取り残されていく被災地、福島では汚染水漏れが問題となり、収束などしていかないことを証明した。そんな中、全国各地から、復興・原発ゼロをめざす歌が創られ、被災地支援のチャリティコンサート、うたう会などはじめ、多様に展開された。

おおさか祭典・大音楽会の、男性合同「おらあこごがいい」、女性合同「風よふるさとよ」から「花は咲く」千人の大合唱へとつづくフィナーレは、全国の仲間の東北・震災復興への思いを束ねたうたごえとして、今年の運動の象徴となった。

仙台合唱団が演奏会で一緒に歌ってくれた人の希望に応える形で実現した山元町の仮設住宅でのうたう会は、被災者を励まし、その後、2014年の日本のうたごえ祭典にもつながるものとなった。

埼玉合唱団は6月と10月に、避難生活の福島・双葉町民を囲む「うりそいコンサート」に参加し、埼玉の避難所で暮らす人たちを励ました。3・11原発ゼロ・うたごえ行動は、福井では「停まった」「海の軌跡」（抜粋）を歌い、金曜行動でつながった人たちとともにうたごえを響かせ、日比谷公園一帯で行われた「原発ゼロ・大行動」では、東京のうたごえがデモの送り出しにリーダー・平和歌集を使って歌い、ミュージックエリアでは「ふるさとを汚したのは誰」などを歌った。

②「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、歌う喜びをひろげる活動

年末の国会で強行された、国民の知る権利、表現の自由を脅かす特定秘密保護法反対の中で、機敏に歌をつくり行動したのをはじめ、3・1ビキニデー、リーダー、憲法集会、母親大会、原水爆禁止国民平和行進など、各種の運動の中でうたごえを響かせた。2013年暮れに結審を迎えたJALの闘いで歌いつがれている「あの空へ帰ろう」は、原告団の心の支えとなり、合唱団フェニックスが誕生した。母親大会でのうたごえ分科会も各地で取り組まれた。

また、気軽に参加して歌う喜びを共有できるうたごえ喫茶の活動も、100人規模のうたごえ喫茶がいくつも誕生し、900人の大うたう会を行った熊本ふらっとなど、シニア世代を中心に広がっている。歌いに行くことで元気を取り戻し、開催のたびに参加者の輪が広がり、そこから、うたごえ新聞の読者、合唱団入団へとつながるきっかけともなっている。

③多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創りだす

5月に、東北の地から離れない、という思いで、山形・蔵王で創作講習会を開催した。直接の創り手が合宿して新しい歌を生み出すというだけの場合ではなく、「今どんな歌が必要とされているのか」、そして既存の曲にはない場合「それをどう生み出すのか」、そこを深く掘り下げ、学び、交流していくことが求められていることから、前年までの創作合宿から創作講習会に発展させた。

残念ながら参加者が少なかったが、それをプラスに考え、マンツーマンに近い密度濃い体制でケアできた。また、武義和・小林康浩両氏の講座の内容が実践的で、初心者にも経験者にも配慮されたものになり、リーダーの力も向上した結果、「前年よりもできた作品の水準は高い」（小林）、「詩からメロディを紡ぎ出すというだけではなく、その詩から音楽的な世界をつくりだしている作品が増えている」（山本忠生）と評価され

た。しかし、参加者を広げるためには、東西に分けるなど開催場所についても検討が必要になっている。

11月のオリジナルコンサートは、18都道府県3産別からの推薦による59曲が発表された。若者の参加、演奏の充実、聴衆の増加など、全体として活気のある楽しいオリコンとなった。

震災や原発をテーマにした作品が今回も1/3を占めた。花に託して少しでも前にすすんでいこうとする被災地の思いを暖かく歌った「花に誘われて」、同じく花の姿から生きる力を描く「水芭蕉」、人間を深く見つめ描こうとした「人という動物」など、創作講習会の学びの中から生まれた作品が、ずっと練り上げられ、良い作品となって演奏された。人間を見つめる視点の深い詩と作曲演奏の質の高さが光る作品や風刺・洒落の効いた作品も集まった一方、「厳しい現実がある中から、どう生きていく希望や人間としての感動を描くのか、言いたいことをてんこ盛りにするのではなく、どうそぎ落として聴く人の心に大事なものを伝えるのか」「作曲や編曲、演奏力の向上によって聴いていて心地よい形の整った作品も増えてきたが、心に残らない曲もある」「詩の求める内容に音楽が応えられていない作品もある」などの課題も指摘された。

65周年記念出版「うたごえは生きる力」(DVD5枚組、CD5枚組)資料集の中で1枚のCDを若手が担当して作品を創り、演奏、録音して製作したのは、創りだした歌を広げる新たな経験となった。

「原発再稼働」「消費税増税」「秘密保護法」「辺野古米軍基地建設」などをはじめ、多くの国民の願いとは逆行する様々な状況の中で、ますます私たちうたごえが生み出す魅力的な歌が待たれている。創り手を育て、創作運動を旺盛にしつつ、学び高め合うことが求められている。

2 合唱発表会運動、地域・分野のうたごえ祭典

①県、産別、全国の合唱発表会のとりくみ

33府県、9産別、1階層で合唱発表会が行われ、全国交流会として

特別に広げた2012年よりもさらに120団体近く広げ、1481団体が参加した。年に1回の地域の発表会を楽しみに、実行委員会参加団体が新しいサークルを誘ってくるなどの経験が生まれている。東京では調布狛江地域で地域に根ざした活動で広がっている。青年は、サークルがない静岡で交流会を開催し、地元の青年団体からの参加者をつかみ、新しいうたごえの芽をつくった。

全国の発表会には、300を超える団体が参加。全国の参加団体の広がりや交流の部、小編成の部の定着による推薦団体数の増加が大きい。当日は、団体数の増加から開催時間の延長を余儀なくされ、会場の立地条件も加わって、お互いに聴き合うのが困難になった。県からの推薦団体の確定や、運営、実務面など、改善が必要な点も見えた。

②地方祭典、産別祭典など

県祭典は4県、ブロック祭典は5ブロックで開催。国鉄闘争の終結を受け、昨年の北海道に続いて御礼のコンサートとしても位置づけて開催の国鉄祭典は、九州のうたごえ祭典と合同での開催となり、1500人が参加。互いの音楽の交流と合同での演奏で思いを届けた。現役の港湾労働者12人とともに名古屋合同合唱団を結成して愛知で開催した港湾のうたごえ祭典では、「若い世代が頑張らねば」と楽譜も読めないところから練習を始めた若い現役労働者が「自分の職場の雰囲気と重なる創作曲に共感し、声を合わせる喜びを感じ」「港湾のうたごえのバトンをつないで行こう」と語るなどの成果を残した。福島・二本松で開催した保育のうたごえ交流会は、福島への想いを寄せる取り組みでうたごえの外に広げ、さくら保育園と南相馬のオプショナル企画で現地の状況を知る機会もあった。

日本のうたごえ祭典開催地の大阪でプレ企画として行われた地域音楽会は、それぞれの地域の特長を生かしながら祭典の「歌って参加」の運動の出发点としてとりくまれた。

青森のうたごえフェスティバルは、特別企画に平和を語りつく「おばあちゃんから孫たちへ」をとりくみ、高校生らとともに歌い広げた。

③ 65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさかのとりくみ

65周年記念のうたごえ祭典として開催した日本のうたごえ祭典・おおさかは、大阪城ホールでの大音楽会11000人、特別音楽会2000人、合唱発表会6000人、のべ19000人を集めて成功した。

「すべてのいのち輝かせ、未来への希望をうたおう」をテーマに掲げ、大音楽会では、橋下大阪市政下での市職員への思想調査違憲訴訟に立ち上がった仲間を励まそうと創作された「こころひとつに」や、東北への思いを寄せる「花は咲く」、65周年記念委嘱3作品などに全国からも歌って参加の輪が広がった。

この時代にあつて大阪城ホール満席の11000人を集めきつたことは、うたごえの外へ大きく広げた祭典として開催地と全国のうたごえの力を示した。「祭典がうたごえ運動の創り出す音楽の魅力を伝え、それを多くの人が共に感じ合った。祭典から生まれたこの共感を『戦争する国』づくりを許さない今後の創造普及活動に生かしてゆく」ことが65周年から次に向かううたごえに求められている。

3 青年サークルづくりを積極的にすすめ、青年の要求と結び合い、多くの青年を迎える活動

①サークル・合唱団で青年を迎えるとりくみ

研究生・教室生制度を継続して取り組んでいる合唱団や、東京や宮城など青年から各協議会や各サークルに向けて直接手紙を送って新たに青年層の参加者を広げているところもある。自分の周りに「青年がいない」と探さずにあきらめるのではなく、まず自ら探して繋がっていくことが大切である。県の協議会の中に青年学生部を立ち上げ、位置づけて取り組むところも出て来た。

福井の「おでん部」は、全国青年学生部会での地域交流などの話し合

いのなかで、全国青年の取り組みにも刺激を受け、地元で初の独自コンサート開催まで活動を発展させた。神戸市役所センター合唱団では、「受け皿」としてのサークルをつくり、そこから団へと青年を迎え、また、青年たちが独自で集まる場としてもしている。現地を地盤として、協議会や各地域の加盟サークルとも連携する機会を多くつくり、青年たちが結集出来る仕組みづくりが大切である。そして、青年空白地域のブロックにも組織の幅を広げ、さらなる青年層を開拓してくことが求められている。

②団体・分野をこえた青年ネットワークをつくり、サークルづくりにつなげるとりくみ

3・1ビキニデー Ring Link Zeroの取り組みのなかでは、オープニング・エンディングともにうたごえで参加者とともに歌い交わすシーンをつくることができた。原水爆禁止世界大会のなかでも、広島・長崎ともに協議会とも連携して青年が全面に出て、ステージでうたごえを響かすことができた。

「もう黙ってはいられない!! まともな仕事と人間らしい生活を」と開かれた全国青年大集会においては、各地のプレ企画や現地へのバスの中で青年のうたごえが関わるシーンもあり、当日は豪雨のなか、文化のテント企画でうたごえ会を開催し、祭典の横断幕なども使ってアピールした。

③青年のうたごえ祭典から日本のうたごえ祭典へつなげるとりくみ

「全国青年のうたごえ交流会」静岡には地元静岡の青年3人を含む52人が参加し、本番指揮者も参加した集中した青年合同曲の練習会、大熊啓さん（東京のうたごえ）を講師とした誕生から今に至る「うたごえ」が求められる意味を学ぶ「うたごえ青年学習会」、ビキニデー主催の青年からの報告などを行った。初めて現地のうたごえ青年不在の開催地となり不安もあったが、全国青年学生部員で役割分担して取組み、無事成功を迎えることができた。交流会を通して静岡の青年との繋がりも生

み出すことができた。

日本のうたごえ祭典・おおさかの青年合同ステージに向けては、全国各地に現地大阪から青年が足を運び、例年の関西・関東のみならず初めての東海での本番指揮者を迎えての練習会を開催することができた。また、東京で行われたスクラムコンサート、全国青年大集会などにも結集し、それぞれ活発に演奏を行った。

現地大阪では各地域主催のコンサートへ青年として数多く出演し、普及した。泉州看護専門学校からの約100人の歌い手参加や大阪の各地域からの青年の歌い手参加の奮闘で、ステージでは近年にない約350人の青年がステージに立つことができた。全国からも新しく福島、愛媛、鹿児島が参加するなど、東北から九州に至るまでの青年が結集し、近年にない117人を組織した。

全国青年学生部として、大音楽会当日の「打ち上げ交流会」を実施。一昨年、広島全国交流会で取り組んだ合唱発表会・交流の部への全国青年のうたごえとしての出演と、「青年の宿」の紹介など継続して取り組んだ。

4 学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーを計画的に育てる活動

①サークル・合唱団・県協議会での日常の教育活動

合唱団では、日常の演奏会や演奏依頼に応える練習、客演指揮者による特別練習で学び合う等の他、研究生、歌の学校などのとりくみが行われた。三多摩青年合唱団では、特別合唱団の取り組みによる研究生ではなく、自治活動も学ぶ中で運動の核になっていく人をつくろうと本格的な研究生のとりくみを行ない、震災復興への若い人のエネルギーも汲み上げて18人を迎え、修了後5人が入団。

また、地元の専門家を合唱指導に招いて学んでいる経験は新鮮で得る

ものも多く学び合いたい。通常の夜の時間による学校とは別に昼の歌の学校を行なった名古屋青年合唱団は、そこに参加する会員が定着し、本団の演奏時の量的な力にも大いになっている。祭典開催の中でも関西合唱団の日曜講座も1回もたれた。京都では、指揮の学びの場としてのめだかの学校と合唱講座が取り組まれた。北海道や九州での合唱講習会のとりくみなど、ブロックでのとりくみも引き続き行なわれている。日本のうたごえ祭典はじめ、地域祭典などのうたごえ祭典開催のとりくみの中で、実践的にリーダーが育ってきている。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を活用し、次代を担うリーダーづくりをすすめる

その時々の人々の願いを汲み取って、運動のヒントを示すうたごえ新聞は、日々の活動の智慧袋ともいえる。合唱団で短時間でも読み合わせや一言感想を言うなど、読む活動をとりくんだところもあった。また、指揮者が音楽創りの中で紙面の記事を引用するなど経験も広げたい。季刊「日本のうたごえ」は、まとまった紙面で、総会、日本のうたごえ祭典はじめ全国の活動から、また運動の理論的裏付けを学ぶことができ。新しい団員に必ず購読してもらい、学びの糧としたい。

③全国講習会のとりくみ

西日本合唱講習会は、大阪での祭典開催運動とリンクして、過去最高の参加者で成功。東の講習会とともに「祭典へ「歌って参加」のスタートラインとなった。講習会は練習会ではないが、祭典を音楽的に理解しようという目的意識を持った合唱は積極性を生み出し、65周年記念委嘱作品を積極的に取り上げて有意義な内容となった。また、特別講師による合唱指導は、西は新実徳英氏、東は金井誠氏、武義和氏とそれぞれ個性で学ぶところも大きかった。声楽講座での新たなヒントなどもあった。西日本のブロックでの準備運営の手法を学び、東の講習会も参加規模含めてさらに充実させたい。

全国指揮・合唱指導講習会では、浜島康弘氏の「65周年の今、うたごえに求められるものは？」と題した理論特別講座。新実徳英氏、工藤

俊幸氏の特別講師を招いて、65周年記念作品3曲をとりあげ、「作曲家が詩を取り上げた視点・意図を理解するにしたがって、音楽が楽譜から立ち上がり、作品の個性が見えてくる」講習となった。コース別指揮法、指揮法特別講座などの受講者も、毎年参加している指揮者から初めて指揮する者まで、それぞれの講座の特徴をより明確にするなかで、貴重な有意義な講習会となっている。

★日本のうたごえ合唱団について

うたごえ40周年の記念合唱団を契機に、自発的に結成された「日本のうたごえ合唱団」は約10年間の活動の後一時休止したが、その後2002年に再建されて10余年を経る。この間、日本のうたごえ祭典での演奏の他、原水禁世界大会、地方のうたごえ祭典、平和音楽祭、定期演奏会等への出演、また、韓国光州音楽祭、中国・南京での演奏、2013年にはドイツ公演等、演奏活動を続けてきたが、あらためてそのあり方などについて検討を進めてきた。

全国協議会の提唱のもと、個人の自主的な参加による全国合唱団だが、実践的な演奏教育の場としても位置づけて参加している団員、合唱団もある。組織的な整合性を整理して、名実共に「日本のうたごえ合唱団」として今後も発展させていきたい。

④ 関鑑子没40周年出版「グレート・ラブ 関鑑子の生涯」での学習と普及

65周年記念出版企画としても位置づけて発行したうたごえ運動創始者関鑑子の評伝「グレート・ラブ 関鑑子の生涯」は、運動内外に反響を呼び、「うたごえの原点がわかった」などの感想に表れているように、運動の理論的柱を学ぶ教材として好評なものとなった。著者の三輪純永うたごえ新聞編集長が各地で講演を行い、普及と学びの機会も持たれた。

5 うたごえ運動の魅力・歌の広がりやうたごえ新聞読者へとつな

ぎ、うたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者拡大につなげる活動

① 「読み、つくり、広げる」活動を強め、「うた新フォーラム」「うた新まつり」の全県開催を計画

全国の多彩な活動を豊かに交流し、運動の輪、読者の輪を広げる。

平和的生存権、憲法の心を音楽・歌で輝かせる全国の演奏創造・普及活動を、編集委員会・編集部と全国からの1052通（12月末日）の通信をもとに編集・発信した。年間を通して震災復興、原発ゼロの社会へ、オスプレイ配備・米軍基地強化反対、大阪思想調査訴訟・JAL不当解雇撤回、特に後半期は、一層露骨になった安倍政権の憲法改悪の動き―96条「改正」、特定秘密保護法案―に反対する運動内外の声と行動を特集。震災復興では、20回余に及ぶ宮城・仙台合唱団はじめの仮設住宅うたう会、全国での被災地に心寄せるコンサート・うたう会、創作曲の通信。また、音楽家（『魂の歌』作曲家の震災復興）、市民団体（福島の子ども支援プロジェクト）の活動を紹介。

憲法改悪反対では、「96条『改正』案」は、『憲法の崩壊』（日弁連憲法委員会事務局長藤原真由美弁護士）、特定秘密保護法案では「表現のスキルを奪うな」と反対運動の先頭に立つジャーナリスト大谷昭宏氏、鳥越俊太郎氏へのインタビューなどで伝えた。

年間の運動の軸・おおさか祭典では、開催地からの通信、多彩なゲスト・協力者のメッセージ、「音楽は生きる力のために」（ソプラノ・佐藤しのぶ）、「心の元気」はつながりから、みんなで歌うという営みは大きな力（生野照子祭典女性のうたごえ実行委員長、医師）、「文化の花が咲いて、活きる暮らし」（木津川計、祭典よびかけ人）など、創造・普及への大きな力となった。

13年は運動創始者関鑑子没40年にあたり、特集した記念企画はあらためて運動の原点と歴史を学ぶテキストとなった。また、大阪の小玉洋子さんはじめ通信や取材から若い力が紙面から伝えられたことも特筆される。

13年の通信掲載者は実数401人(12月末。この5年間を見ると2009年は323人)と活発になっている。団ニュースの送稿も大切だが、全国に発信することを意識した記事による通信が伝える意味は大きく、通信活動、その充実が求められる。

読者拡大では、毎月、県の読者状況を把握して進める奈良の支局会議に学びたい。読み・作り・広げる活動を推進するうた新フォーラムは、北海道、千葉、東京、長野、愛知、京都、広島、大阪、福岡で開催。全国展開の計画を強める必要がある。

②サークル・合唱団・協議会で、うたごえ新聞を真ん中に、語り合い、記事を作り、身近に感じながら、運動を進める力・読者を広げる力にする

5月に熱海で、「うたごえネットワークを大きく！ 強く！」日本のうたごえ組織建設全国活動者会議を開催。北は東北・青森から、南は九州・長崎、大分まで全国22都府県から各県の会長・事務局長などが参加。うたごえ新聞の読者拡大、うたごえネットワークを広げる日ごろの活動を交流し、学びあった。毎月全サークルから担当者が集い「会議に来ると元気になる」と担当者が言う奈良の支局活動は、1カ月の読者の増減を出し合い、目標を設定、確認しながらとりくみを進めるだけでなく、サークルでの悩みも出し合い、みんなで解決のために取り組んでいる経験が報告された。

③最高時読者をめざし広げるとりくみ

5月の全国活動者会議まで、原水爆禁止世界大会まで、秋の合唱発表会の中、日本のうたごえ祭典まで、年末まで、総会まで、と節を設けてとりくんだ。「読者拡大全国メールにゅーす」を毎週発行し、全国の経験を返し、活動を励ました。各地でも、東京、愛知・東海、京都、大阪などニュースで励ます活動が読者を広げる足を踏み出す力になっている。また、祭典の中で読者を広げた大阪のとりくみは、祭典成功への大きな

力となった。全国の合唱発表会会場ロビーでの「うた新パフォーマンスコーナー」で「青年頑張っているから」と申し込みがあるなど新しい試みも成果をあげた。引き続き、合唱発表会参加団体への購読の呼びかけなど、一番うたごえの身近な仲間への働きかけをすすめていくことが大切である。

①季刊「日本のうたごえ」の会員全員購読へのとりくみ

No.159(162号)を発行。震災復興・原発ゼロへ、おおさか祭典を軸に特集。詩人・石黒真知子さん、作曲家・小林康浩さん、合唱指揮者・栗山文昭さんの連載とともに、各号のメイン企画はNo.159、65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさかへ、その意義を渡辺武おおさか祭典実行委員長と西恒人日本のうたごえ全国協議会会長の対談。2012年全国合唱発表会演奏批評座談会。No.160は総会特集号、記念講演落合恵子さん(『3・11以降のわたしたち：鎮魂と抵抗と』)。No.161はシンポジウム「3・11から2年 震災復興・原発ゼロへ」生きる権利と文化」(詩人、子ども・教育研究者、女性運動、うたごえからと各ジャンルからの)。「うたごえネットワークを大きく、強く！」(全国組織建設活動者会議)、No.162「おおさか祭典へ めざしてきたもの つくりあげてきたもの」、「6周年のいま、うたごえに求められていることとは」(浜島康弘)。

東京で、年末の大行動の中で、うたごえ新聞、65周年記念出版「うたごえは生きる力」とともに、季刊「日本のうたごえ」の読者拡大が位置づけてとりくまれました。週刊のうたごえ新聞に対し、季刊発行で掘り下げた内容を紹介している本誌は運動を推進するテキストであり、加盟員全員購読がひきつづき求められる。

6 サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくり。地域ブロックの連帯活動を活発に

①サークル・合唱団を新たにづくり、合唱団員をふやす活動

闘いの中で歌が生まれ、うたごえが支援を続けることでJAL原告団合唱団フェニックスが生まれ、合唱発表会にも参加した。全厚生闘争団も合唱発表会に参加。京都では母親大会開幕合唱から合唱団が生まれ、地域のうたごえ祭典に参加した。

また、各地で、研究生制度、演奏会に向けた特別団員、市民合唱団など、粘り強い働きかけ、音楽の魅力でなど工夫して新しい団員を増やしている。日本のうたごえ祭典と一緒に歌って参加した人たちが次々と入団してきている大阪。演奏会での演奏の魅力で団員を増やした京都のかえるコーラスなどもある。新婦人のコーラス小組では、小組体験会を通しての入会などもある。うたごえ喫茶からの入団や、そこからのサークル発足もある。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」読者を増やすことを、サークル・合唱団で討議し、目標を持ち、計画的に増やす活動

愛知では2年後の日本のうたごえ祭典開催を見通して地域合唱発表会を地域のうたごえ祭典としてのとりくみに発展させて参加団体を広げている。京都では、合唱発表会の参加団体のうた新読者数を把握して事前に手を打ち、京都の発表会当日1日で15人の読者を広げた、など、協議会として目標と計画をもってとりくんだ。

③加盟団体500、協議会のない県での確立をめざす活動

日本のうたごえ祭典を開催した大阪で、青年サークルのブルースカイなど3団体が加盟したのをはじめ、北海道、岩手、東京、愛知、京都、兵庫で新加盟団体を迎えた。合唱発表会運動や祭典のとりくみを通しての共同が加盟の動機付けになっている。

北陸では、全県での合唱発表会開催へと運動が進んできた中で、石川県で協議会が発足した。うたごえ連絡会に有志が協議会の設立を提案し、

設立準備会、代表者会議で討議を重ね、9月の合唱発表会の日に発足。

毎月のブロック会議を定例化した関西ブロックの活動は、合唱講習会のとりくみ、祭典事務局、企画委員会への派遣など、大阪での日本のうたごえ祭典成功を支えた。また、うたごえ新聞読者を広げる取り組みも毎月交流され、運動を励ました。関東・東京ブロックでも関西の活動に学んで合唱講習会の取り組みをブロックで準備を始めるなど活性化がみられる。東北ブロック交流会を通しては、2014年宮城での日本のうたごえ祭典への連帯を強めた。

7 多くの人に喜ばれるうたごえ出版物をつくり、ひろげる活動

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画製作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする

運動65周年・関鑑子没40年という節目の年ということで、関連及び記念の出版を行った。第一弾として、三輪編集長執筆による「グレート・ラブ 関鑑子の生涯」(新日本出版社発行)。続く第二弾は、守屋博之氏が運動の中で生まれた10000余曲の中から19曲を選んだ、CD「いつも始まりのように」。そして12月1日発売の大型企画「うたごえは生きる力」。予約活動も含め普及を行っている。いずれも、運動の歴史を学ぶうえでも大変貴重な出版物であり、寄せられている感想でも「グレート・ラブ」の世界が映像になっている。改めて本を再読しています」
「CD『僕をつくる道』はうたごえの未来を感じる」など、かつてうたごえで活動した方や、労働運動で共に闘った方など、うたごえ内にとどまらず、うたごえ外にも共感と期待の声があがっている。引き続きの普及でこれからの運動の力としていきたい。

「メーデー・平和歌集」は、官邸前行動をはじめ、各地での反(脱)原発の集会に参加している人たちにも一緒に歌ってもらえるようにと、選曲も考慮し、また、新曲も公募し、掲載した。普及部数は例年よりも

若干増えた。資料CDはかねてより要望があった、メーデー定番曲のクラオケも収録し、伴奏者がいない場でも活用しやすいようにした。

メーデー・平和歌集や、「うたごえは生きる力」の製作過程での協議会常任委員会での論議など、運動に役立つ出版物の企画制作のあり方も見えた。

祭典歌集は今年度も発行。祭典への演奏参加のためだけでなく広がっている。

祭典でも歌われた「希望のうた」掲載の武義和作品集が11月に発売された。太田真季さんが歌い、楽譜の要望があった「母三章」も掲載。作品を取り上げるだけでなく、武氏を招いての講座を開くサークル・合唱団が増えてきている。

「うたごえ喫茶ソングブック828」は引き続き好評。それに伴い、楽譜集の問い合わせが増えている。

自主制作で依頼があったCD・組曲「無言館」では、制作協力をし、取扱も行った。これにより、「この演奏に取り組んでみたい」という声もあがり、楽譜集の出版に繋がった。

②インターネットを活用したとりくみで新たな層に広げる

ホームページに65周年記念出版「うたごえは生きる力」の特設ページを設け、視聴できるようにし、注文が広がった。楽譜のダウンロード販売なども行なっている。この分野については、さらに研究が必要である。

8 郷土のうたと踊り

東と西で郷土講習会を開催した。

東日本は、「震災復興を願ってふるさと守る郷土のうたや踊り、和太鼓を生きる力に！」4月27、28日東京国立オリンピック記念青少年総合センターで開催。昨年関東・東京うたごえ交流会、大島での保存会と

の出会いから実現した「御神火太鼓」初級・中級（大島御神火太鼓保存会）、「南京玉すだれ」（跳鼓舞）、「担ぎ桶太鼓」（元祭衆）の4コース69人の参加で取り組まれた。「玉すだれ」は、若い参加者も加わり、郷土芸能を堪能し演目に。

西日本は、5月5、6日、こうべ輪太鼓センターで、日本のうたごえ祭典・おおさか開幕演奏の天神囃子をアレンジした全国郷土合同「浪速の祭り」を民族芸能アンサンブル若駒の講師陣で「お囃子コース」（太鼓）、「踊りコース」（段ボール獅子と紙傘渦巻き）、「しの笛コース」（六本調子）、「和太鼓・花がたみコース」（太鼓）の4コース70人が参加、東日本からも代表参加があった。

おおさか祭典の全国郷土合同で「浪速の祭り」を太鼓、しの笛、踊り（獅子舞、傘踊り）で会場を練り歩き、祭典を華やかに盛り上げると同時に郷土芸能の素晴らしさを体感し、レパートリーにもなりつつある。

開幕前演奏に太鼓を取り入れ、東日本の太鼓仲間と演奏を組織することができた。震災復興の支援演奏もとりくみ、陸前高田の「動く七夕まつり」のお囃子と山車に出会い、交流の中で演目に取り入れた。

東では「江戸やつこまつり」の定着開催が大きな力となっている。うたごえ運動は、合唱と同時に郷土芸能を早くから取り入れ、現在両立しているサークル・合唱団が増えつつある。

9 世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる

日本のうたごえ合唱団が「脱原発」を宣言したドイツでその交流も含めた海外公演を行なった。「この灯を永遠に」「紫金草物語」のニューヨーク公演、「平和の旅へ」のニュージーランド公演、「悪魔の飽食」のロシア公演、絹の道合唱団のポーランド公演など各合唱団の海外公演も活発に行われた。また、光州事件をもとにしたミュージカル「華麗なる休暇」が実行委員会できりくまれた。他にも日本国内で様々な形での国際交流が盛んに行なわれた。祭典では韓国から「平和の木合唱団」を招き、

交流したが、全国協議会として国際交流の進め方についての方針をしつかりもつことなど課題も見えた。

10 65周年での運動をすすめる中で、70周年にむかう運動計画を立案していく

その柱として「日本のうたごえ祭典」の開催計画をもつ

70周年へむかう運動計画の柱としての日本のうたごえ祭典開催計画については、全国協議会の祭典プロジェクトで検討し、まだブロックとして未開催の四国などを視野に入れて働きかけをすすめてきている。70周年は首都東京での開催の方向で東京に打診をするなど、展望を持った準備が始まった。

ひびけ「憲法の心」！うたごえ明日への希望！

2014年方針

昨年は、うたごえ運動65周年・運動の創始者である関鑑子没40年の年であり、様々な記念企画や取り組みが行われた。その成果を引き継ぎ前進させながら、「うたごえは平和の力、生きる力、うたはたたかいたともに」をさらに高く掲げて、日々の思い・願いを豊かな音楽にして歌い広げていきたい。とりわけ憲法が掲げる平和主義、民主主義、基本的人権など憲法の心を輝かせるうたごえを今こそ思い切って広げたい。

うたごえ65年の役割を発揮することが強く求められている。積極的なうたごえの演奏普及の広がり組織拡大につなげ、次代を担うリーダーづくりや学習・教育をさらに旺盛に展開しよう。

11月22〜24日に開かれる「日本のうたごえ祭典『みやぎ』」は重要な意味を持つ祭典となっている。被災地に心寄せ、憲法の心を輝かせる祭典として、全国の連帯で大きく成功させよう。そして戦後・被爆70年・NPT国際行動となる2015年につなげ、うたごえ70周年に

向かって力強い歩みをすすめていきたい。
そのために、2014年度を以下の活動方針ですすめる。

方針〈1〉生きる力・平和の力となる音楽を輝かせ、平和憲法をまもり生かす。共に生きる町づくり、地域づくり、職場づくりのうたごえを活発にすすめる。

① 「憲法の心」を輝かせるうたごえの演奏・普及を積極的にすすめる。
② 東日本大震災の被災地への支援と復興・再生、原発ゼロの社会をめざす思いを歌にして広げる。

③ いつでも、どこでも、うたごえをを合言葉に、多種多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びをひろげる。

・ 平和のうちに生き働くことへの思いを歌にして、地域、職場からうたごえを起こす。

・ 全市区町村での「みんなうたう会」実現へ、計画を持って実践する。
④ 多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

・ 新しい創り手を生み出し、作品交流を活発にししながら、「みんなでつくり歌う運動」を広げる。

・ 全国創作講習会を多くの参加者で成功させる。オリジナルコンサートの充実とともに、「オリジナルソングブック」の活用を日常的にすすめる。

方針〈2〉合唱発表会運動を豊かに発展させ、地域・分野のうたごえ祭典を成功させる。

① 合唱発表会を地方、産業別、全国とも活発にし、歌う活動の実際を交流し、学び合い、創造活動の前進をめざす場にする。

・ 合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じ

て交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。広く参加団体を呼びかけるとともに、開催の仕方や運営を工夫し、豊かな交流ができる合唱発表会づくりをめざす。

・合唱発表会参加団体を1600団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

②うたごえを起こし新たな前進へ、地域や都道府県単位、産業別・階層別の祭典を活発にする。

③運動の様々な展開を旺盛にすすめ、そのすべての成果を「日本のうたごえ祭典『みやぎ』」に集約し、東北と全国の力を寄せ合って大きく成功させる。

方針(3)青年サークルづくりや会員を広げる行動を積極的にすすめる、青年・学生の要求と結び合った歌を創り広げる。

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生と繋がる活動を意識的に持つ。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

③「青年のうたごえ祭典」の持続的開催への努力、全国での若い世代との結びつきを模索し追求する取りくみを「日本のうたごえ祭典『みやぎ』」につなげる。

方針(4) 65年の歴史に学び、豊かな演奏・創造・普及と運動の理念を受けつぎ発展させる。そのための学習・教育をすすめる、次代を担うリーダーを計画的にそだてる。

①運動65周年・関鑑子没40年の財産を引き継ぎ、それぞれのサークル・合唱団・協議会で教育を日常の練習や活動の中で行うことを重視し、演奏・創造活動を豊かに発展させながら、批評活動や運動の理論活動をす

すめ前進への力にしていく。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を積極的に活用するなど、学習・教育活動を活発にし、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強め、各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。

④運動65周年・関鑑子没40年で出版された「グレートラブ 関鑑子の生涯」、記念企画「うたごえは生きる力」の普及と学習をさらに意識的にすすめる。

方針(5) うたごえ運動の魅力・歌の広がりすすめる日常のとりくみの中で、「うたごえ発ジャージャーナルであるうたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者の輪を常に意識的に広げる」。

①全国の多彩な活動を豊かに交流し、運動の輪、読者の輪を広げるために、「読み・作り・広げる活動」を強め、引きつづき「うた新フォーラム」の全都道府県開催（未開催県の意識的開催）、「うた新まつり」などを計画する。

②サークル・合唱団・協議会などで、うたごえ新聞を真ん中に、紙面の感想や記事への要望を語り合い日々の取り組みを記事として送る。うたごえ新聞をより身近に感じ合えるものになら、運動を支えすすめる力となる新聞読者を広げる。

③担当者による会議、ネットワークなどをつくり、日常的な交流と取り組みをすすめる。

④創刊55周年（2010年）に達成した読者の峰を早期に回復し、最高時のうたごえ新聞読者をめざしてさらに力を合わせる。

⑤季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員の全員購読をすすめることで倍加をめ

ぎす。

方針〈6〉サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくりをすすめる。また、各地域ブロックの連帯活動を活発にする。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②合唱発表会参加団体や協議会加盟団体、うたごえ新聞と季刊「日本のうたごえ」の読者を増やすことをサークル・合唱団で討議し、目標を持って計画的に増やしていく。

③加盟団体500団体をめざす。うたごえ協議会の確立を計画を持ってすすめる、全ての県にうたごえ協議会をつくることを目指していく。

方針〈7〉多くの人に喜ばれ活用されるうたごえ出版物をつくり、広げる活動をすすめる。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

・「2014メーデー・平和歌集」、CD、DVDなどを活用し、多くの人にうたごえを届ける。

・みんなうたごえ、うたごえ喫茶の活性化や拡大のために、出版物の活用や普及に努める。

・サークルや合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

②楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みで、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針〈8〉うたごえ運動の中での「郷土のうたと踊り」の位置づけを高め、郷土芸能を掘り起こし継承していくと取り組み、全国の活動の経験交流などを活発にし、全国講習会を充実させる。

方針〈9〉世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げ、継続的な交流の計画をもつ。

方針〈10〉「日本のうたごえ祭典」の開催を軸にしながら、2015年の戦後・被爆70年・NPT国際行動から、うたごえ70周年(2018年)にむかう総合的な運動計画を立案していく。

・2015年の愛知祭典の準備をすすめる、2016年は愛媛県で開催する。

おわりに

この町で生きている

この町で生きてゆく

この町でもう一度 歩き始めよう

この町で生きている

この町で生きてゆく この町が

この町が大好きだから

(『この町で』より)

日々の暮らしに渦巻く思い・明日への希望を込めた歌を創り、豊かに歌い広げ、人と人との心をつなぎ平和をまもり生きていく力としていきたい。

東日本大震災での被災から復興へと立ち向かう。放射能汚染から故郷をかえせと怒りの声が響く。「原発なくそう」と行動をすすめる。自由と民主主義・人間として生き働く権利や生活をまもれと声を上げる。沖縄に日本に基地はいらないと声を広げる。戦争をする国ではなく、平和をまもれと腕をくむ。

そこに憲法の心がある。そうした思いと結び合って、うたごえを今こ

そ響かせよう！ 歌う喜びいっぱい笑顔を重ね、明日への希望をうたおう！

◆2014年主な日程予定

◎日本のうたごえ祭典 in みやぎ

11月22日(金) ～ 11月24日(日) 宮城

◎地域・職場うたごえ祭典・交流会

教育のうたごえ祭典 in 群馬

8月9日(土) ～ 10日(日) 群馬

私鉄のうたごえ祭典 in 愛知

8月24日(日) 愛知

国鉄のうたごえ祭典

10月12日(日) ～ 13日(月) 広島

電通のうたごえ祭典 in 仙台

7月26日(土) ～ 27日(日) 宮城

医療のうたごえ祭典

9月13日(土) 東京

港湾のうたごえ祭典 日時未定 東北

郵便のうたごえ祭典 9月 大阪

全国保育のうたごえ交流会

9/21 or 28(日) 奈良

自治体のうたごえ交流会 日時未定 大阪

北海道のうたごえ祭典 in 室蘭

9月13日(土) ～ 14日(日) 室蘭

北海道交流会 6月7日(土) 札幌

山形のうたごえ祭典

7月21日(月) テルサホール

信濃のうたごえ祭典

9/28(日) 予定 飯田

北陸のうたごえ交流会

9月28日(日) 福井

東海のうたごえ交流会

7月12日(土) ～ 13日(日) 岐阜

兵庫のうたごえ祭典 in 加古川

11月2日(日) 加古川

九州のうたごえ祭典 in 長崎

10月4日(土) ～ 5日(日) 長崎

青年のうたごえ交流会 in 福島

6月14日(土) ～ 15日(日) 福島

東京・関東のうたごえ交流会 in 栃木

7月12日(土) ～ 13日(日) 栃木

◎全国講習会

東日本合唱講習会

5月24日(土) ～ 25日(日) 東京

東日本郷土講習会

6月7日(土) ～ 8日(日) 東京

西日本合唱講習会

5月4日(日) ～ 5日(月) 広島

西日本郷土講習会

日時未定

全国指揮・合唱指導講習会

6月20日(金) ～ 22日(日) 長野

西日本創作講習会 in あいち

8月1日(金) ～ 3日(日) 愛知

東日本創作講習会 in ふくしま

5月9日(金) ～ 11日(日) 福島

◎全国大会・集会

3・1ビキニデー集会

2月28日(金) ～ 3月1日(土) 静岡

第60回日本母親大会

8月2日(土) ～ 3日(日) 神奈川

原水爆禁止世界大会・広島

8月2日(土) ～ 6日(水)

原水爆禁止世界大会・長崎 8月8日(金) ～ 9日(土) 長崎